

市営住宅 供給量を増やし、住み続けられる施策を!



高い市民ニーズに応えるためにも改修費を増額し、市営住宅の供給量を増やすことと、ニーズのミスマッチを防ぐために随時募集を提案し、それぞれ前向きな答弁がありました。現在、市営住宅にお住まいの方の

高齢化が進行し、自治会が結成できず、以前は行えていた草刈りなどの活動が困難になっている事例を紹介し、徳島市として自治会を支援する仕組みの導入や管理可能な住環境の整備を行うことを要望しました。

「特定利用港湾」候補に徳島小松島港

市は県に、指定につながる「要請」と「確認の旨」の撤回を求めよ

9月「特定利用港湾」(防衛力強化のため平時から港や空港を自衛隊や海上保安庁が利用できるようにする政府の構想)の候補に、徳島小松島港が挙がっていることが明らかになりました。県は住民への詳しい説明もないまま、5項目の「要請」を申し添え、「円滑な利用に関する枠組み」を確認した

旨、国に回答しました。この構想は「安保3文書」が出发点で、自衛隊が「訓練」や「有事」に、港や空港を利用するねらいがあります。軍事作戦に利用されれば「攻撃」の対象となる可能性があります。市としてこうした「要請」などを撤回するように県に求めよと迫りました。



アミコビル

再生は過去の反省を生かしてこそ!

弁護士による調査書より、ずさんな経営実態やガバナンスが欠如していたことが報告されたことを受け、旧経営陣への責任追及や今後の在り方について迫りました。今後、経営ビジョンと中期収支計画を十分な検討のもと求めていくとの答弁でしたので、「絵にかいた餅のような実現性のない計画」で20億円の融資を決定した時と同じ轍を踏まないように、現実に沿った根拠のあるプランを示していただけるよう求めました。



暮らし 平和 子育て

みんなの願い
届けました



前市長の公文書公開請求事件

透明性の高い遠藤市政の実現を!

徳島市が敗訴した公文書公開請求事件について考えを質しました。内藤元市長は、当時、不当な働きかけをした議員は黒塗りで非公開、疑いの段階の議員を実名で公開するという異常な対応をしました。それが裁判にまで発展し徳島市が敗

訴、裁判費用も約140万円かかりました。当時の対応に誤りがあったことを大変重く受け止めているとの答弁があり、遠藤市長を先頭に市政の透明化に努めていただけるよう強く要望しました。



国民健康保険料

子どもの「均等割」無料化を

徳島市の国民健康保険の保険料は、全国的にみても高いものになっています(県庁所在都市のなかで上から8番目)。憲法で保障されている地方自治の原則を発揮して、負担軽減策として、市独自に一般会計からの繰り入れをするよう求めました。国が2027年4月導入をめざして、国民健康保険の保険料(均等割)の半額対象を現在の就学前から18歳まで広げる方針を明らかにしました。ここで徳島市が就学前の子どもの残りの半額を負担すれば「子どもの均等割無料化」が実現します。この機会を捉えて市が負担するよう求めました。



生活保護行政 適正に行えるよう人員体制強化を

生活保護費の国庫負担金過大請求問題が明らかになってから、市民からも不安の声が上がっています。11月の記者会見で、遠藤市長は、国に支払わなくてはならないお金が、令和元年から5年間の分が5093万6000円であ

ること、今年度に入ってから生活保護に関する事務処理がすでに適正に行われていることを明らかにしています。これからも適切な処理が行われていくよう人員体制の強化などを求めて質問しました。

